

冬期の凍結による破損防止について

- ・冬期は暖かい地方でも、給水・給湯配管の水が凍結し、破損事故が起こることがあります。こうした事故を防止するために次のような処置をお取りください。
- ・ニュース報道にあるように、コロナ禍の影響で各メーカー給湯器の生産に支障が出ています。故障や破損への注意をお願いします。

※破損防止の対策についてはガス給湯器の機種により異なる事がございます。

※お使いのガス給湯器の取扱説明書や各社ホームページを参照ください。

凍結防止の対策① 凍結予防ヒータと自動ポンプ運転による方法

給湯器には外気温が下がると自動的に機器内を保温するヒータ（給湯側）と自動ポンプ運転装置（ふろ側）が組み込まれています。

（給湯器に接続されている水道配管部分の凍結防止には効果はありません）

■お客様に行っていただきたいこと

1.給湯器の電源プラグがコンセントに差し込まれているか確認してください。

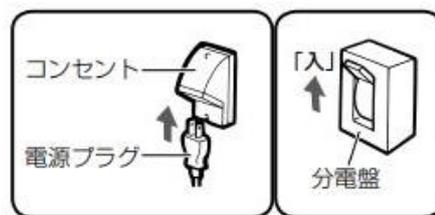
※抜けているとヒータやポンプが作動しません。

2.浴槽の残り湯が循環金具より5cm以上、上にある状態にしておいてください。

※機器が外気温を感知し、自動的にポンプ運転を行います。

※外気温が極端に低くなる日や、それ以上の気温でも風がある日は対策①では凍結予防ができなくなります。

このような場合、対策②の方法も行ってください。



凍結防止の対策② 給湯栓から水を流す方法

この場合、機器本体だけでなく給水・給湯配管、給水元栓、給湯栓の凍結予防もできます。

ふろ側はポンプ運転により凍結予防をしますので、対策①は実施しておいてください。

■操作のしかた

1.給湯器のリモコンの運転スイッチを『切』にします。

2.浴槽に排水線をしてからお風呂の給湯栓を開け、1分間に約400ミリリットルの水を浴槽に流しておいてください。

※この場合、浴槽から水があふれることがあります。

※サーモ付き混合栓や、シングルレバー混合栓の場合は設定温度を最高温度の位置にしてください。

（再使用時の設定温度には注意してください。）



凍結した時の対処方法について

お湯の出る蛇口からお湯も水も出なくなった場合には、給湯器、または接続されている配管が凍結した可能性があります。この場合は、

1.給湯器のリモコンの運転スイッチを『切』にしてください。

(給湯器の電源プラグはコンセントから抜かないでください)

2.気温の上昇によって自然に解凍するまでお待ちください。

(お湯をかける、またはドライヤで温風を当てると配管等が損傷する恐れがあります)

3.お湯の出る蛇口から水が出るようになったら、給湯器やその配管などから水が漏れていないかを確認してからご使用ください。